

## 2024年度の事業計画を策定しました

当協会は、2月の理事会において、以下三つを柱とする2024年度事業計画を決定しました。

- I. 会員銀行を通じた地域経済への貢献
- II. 会員銀行の健全な成長支援
- III. 協会事業の高度化・効率化

我が国の地域経済においては、コロナ禍が収束し、社会経済活動の正常化が進みつつある一方、人口減少・少子高齢化による人手不足、地政学的な緊張の高まりなどを起因とする物価高の影響が顕在化しています。こうした中、地方銀行には、資金繰り支援に留まらない中小企業等への本業支援・事業承継支援・事業再生支援等について、先延ばしすることなく取り組むことが求められています。また、「人生100年時代」を迎える中、顧客本位の業務運営を前

提とした家計への安定的な資産形成支援の重要性も高まっています。

当協会は、「地方銀行の健全な発展を通じて金融経済の伸長に寄与し、もって公共の利益を増進する」という目的のもと、会員銀行における地域経済・社会の課題解決に向けた取り組みの支援を行っていきます。また、気候変動や生物多様性への対応、人的資本経営の促進といった社会的要請に会員銀行が適切に対応できるよう、必要な情報収集を図り、会員銀行に還元してまいります。

加えて、新たな共同事業として生活基盤プラットフォーム構想の実現に向けた検討を行うほか、「協会運営の中期ビジョン」のアップデートを行いつつ、協会機能の更なる強化を進めてまいります。

## 中堅・中小企業の脱炭素経営促進に向けた支援ツールを作成しました

当協会は、2024年2月、事業者の皆さまにおける脱炭素経営の一助となることを目指し、全国銀行協会および第二地方銀行協会と共同で、脱炭素経営の必要性や具体的な取り組みの進め方等を整理した「CO2見える化とその先に」を作成しました。

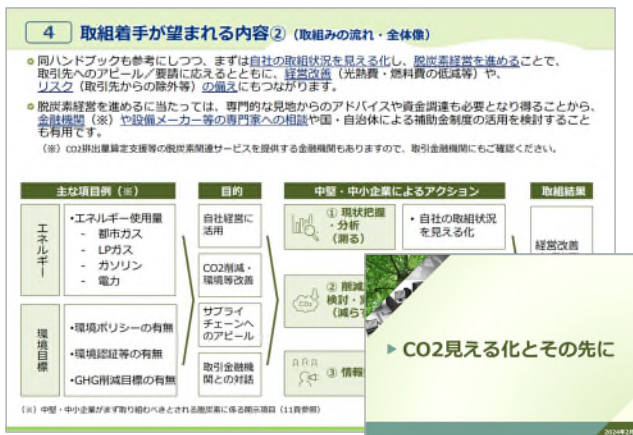
あわせて、事業者の皆さまと銀行の担当者が対話する際の参考資料として、気候変動の基礎知識等をまとめた「脱炭素経営に向けたはじめの一步」（2023年1月作成）を

更新しておりますので、ぜひこれらのツールを銀行との対話等にお役立てください。

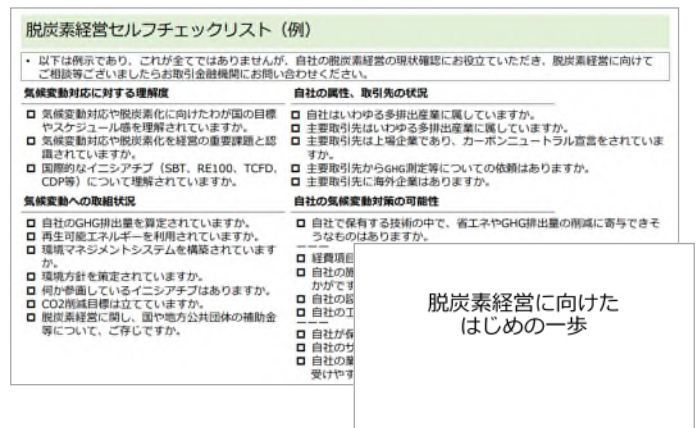
詳細は、当協会ウェブサイト ([http://www.chiginkyo.or.jp/association/opinion\\_infomation/information/001290.html](http://www.chiginkyo.or.jp/association/opinion_infomation/information/001290.html)) をご覧ください。



ここからアクセス！



▲ 「CO2見える化とその先に」より一部抜粋（2024年2月作成）



▲ 「脱炭素経営に向けたはじめの一步」より一部抜粋（2023年1月作成・2024年2月更新）

## 「地方創生事例集」に記事を追加しました

—— 港町・清水で鮮度抜群の野菜が食べられる！？（やさいバス×清水銀行）

港町・清水のとある街角の野菜売り場。真っ赤で味も濃くてみずみずしいトマト、香りの強い舞茸、密度があり葉の味がしっかりしたグリーンリーフ、シャキシャキの小松菜…。これらはみな「やさいバス」により、各地の生産者から、出荷されたその日のうちに運ばれたもの。

2021年8月、清水区を起点に山梨県、長野県を結ぶ中部横断自動車道が開通。清水に本店を構える清水銀行は、この新たな交通・流通網を活用した地元企業の活動を積極的に後押ししています。

詳細は、当協会ホームページ掲載の「地方創生事例集」をぜひご覧ください（[http://www.chiginkyo.or.jp/assets/nogyo1\\_1\\_0151.pdf](http://www.chiginkyo.or.jp/assets/nogyo1_1_0151.pdf)）。



ここからアクセス！



## ～中小企業DX待ったなし！～

### 手形・小切手の利用廃止の取り組みが進んでいます

政府が、2026年までに約束手形の利用廃止に向けた取り組みの促進と小切手の全面的な電子化の方針を打ち出していることをご存じでしょうか。

金融界においても手形・小切手の利用廃止に向け、以下のような施策が相次いで公表されています。

主な取り組み
・当座預金口座の新規開設停止
・期日が2027年4月以降の手形・小切手の取立受付の停止
・手形・小切手帳の価格改定

「2026年までまだ時間がある」、「現状の経理事務を変える必要性がない」等の理由で紙の手形・小切手を使い続け、でんさい（電子記録債権）やインターネットバンキングによる振込といった電子的決済手段への移行が遅れる

と、場合によっては、取引先との資金決済に支障が生じ、商取引そのものが継続できなくなることも考えられます。

昨年のインボイス対応が期限ギリギリとなり、焦った方も多かったのではないのでしょうか。紙の手形・小切手を利用している事業者の方におかれましては、電子的決済手段への早期の切替をお願いいたします。電子的決済手段への切替は、印紙代等のコスト削減、郵送手続等の事務負担の軽減、盗難や紛失等の紙固有のリスク低減といった多くのメリットも期待されます。

全国の地方銀行では、電子的決済手段の導入手続きや操作方法等のサポートを行っております。まずはお気軽にお問い合わせください。

手形・小切手の電子化についてこんな風に考えていませんか

2026年までまだ時間ある…

ずっと紙の手形を使ってるし変える必要ない…



PCの操作がよく分からない…

金融機関では手形・小切手の利用廃止に向けた取り組みが進んでいます！

電子化が遅れると…

- ✓ 手形・小切手が資金化できない
- ✓ 取引先との商取引が継続できない等のリスクがあります

電子的決済手段への切替について、お取引先の銀行へご相談ください！



## 地元のために働きたいみなさん！「先輩行員の声」をぜひご覧ください

当協会は、地方銀行への就職を目指す学生や転職等を検討する社会人の方に向けて、現役地方銀行員からのメッセージ等を「先輩行員の声」としてウェブサイトに掲載しています ([https://www.chiginkyo.or.jp/regional\\_banks/recruit/](https://www.chiginkyo.or.jp/regional_banks/recruit/))。

惹かれたのはエリアの成長性。地方銀行ならではの魅力に没頭していく

成長を続けるこのマーケットで働く魅力

横濱銀行が地域とする神奈川県・東京は、経済成長を続ける日本でも有数のマーケットです。私は、大学入学を機に札幌から横濱に転居しましたが、大学4年間でみなとみらい地区は様々な開発が進み、街が大きくなっていく様子を目の当たりにしました。街の成長を実感できる環境で働くことは魅力的です。その地域に根ざすお客さまも、さらなる成長が期待できます。

そうした地域には当然人も集まり、銀行が役に立つ機会も無数にあります。神奈川県・東京というマーケットなら、個人としても活躍する機会が広がっており、会社とともに自分自身も大きく成長できると確信しました。

「お客さまを好きになる」ことから始める

最初に配属された支店では、様々な中小企業のお客さまや地主・富田様の方を中心に融資や幅広いソリューションを提供する法人、個人渉外のいずれも経験しました。2019年に現支店へ異動した後は、法人渉外を担当しています。

幅広い業務を経験しましたが、共通するのはお客さまに興味を持ち、関心を深めていくことがお客さまにとっても満足度の高い提案につながるということです。後輩にもお客さまに寄り添う姿勢を大切にしてほしいと考えます。



ここからアクセス！

2023年12月には、新たに以下の6名のメッセージを追加掲載いたしました（これにより、現在、10行14名のメッセージをご覧いただけます）。

【掲載している先輩行員の担当業務の一例】

- ・ 営業店における法人渉外
- ・ スタートアップ企業の事業成長支援
- ・ 中小企業の事業承継、経営参画による企業価値向上支援
- ・ ストラクチャード・ファイナンス<sup>(注)</sup>の組成  
(注) 仕組み金融とも呼ばれ、大規模案件の資金調達時に活用される融資手法です。
- ・ 銀行施策の企画立案や新規事業の創出
- ・ 行員の採用、採用イベントの企画運営

各行員の現在の業務内容のほか、地方銀行を選んだ理由や地方銀行での働くやりがい、今後の抱負等について、具体的なエピソードを交えた想いのこもったメッセージを掲載していますので、ぜひお読みください。

当協会は、今後とも、地方銀行の業務や働き方、魅力を発信していけるよう、掲載情報を充実させてまいります。

### ～地方銀行へ就職をお考えの方へ～

## 「地銀協グループ保険制度」等のご案内

何かと先行き不透明な時代だからこそ、万一の際も安心して働き続けられる職場環境の整備が求められています。

こうしたニーズに応えるため、当協会は、会員銀行とその関連会社で働く役員<sup>※</sup>・ご家族に安心をお届けするための福利厚生制度として、「地銀協グループ保険制度」を運営しております。

本制度は、加入者である会員地方銀行等の役員等が万一、死亡または高度障害などに該当した場合に、生命保険会社から

保険金等をお支払いするものです。地方銀行が集まって大規模な制度とすることによりスケールメリットが働き、安価な保険料と高い配当還元率を実現しています。

このほか、病気・ケガ等に備える医療保障保険制度等の運営も行っております。地方銀行にご就職の際は、また、すでに地方銀行にお勤めの方、そのご家族も、ぜひご加入をご検討ください。

### 充実した保障ラインナップ！

#### ご家族のために

##### ✓ グループ保険制度

万一のことがあった場合に、ご遺族等に死亡・高度障害保険金をお支払いする最もベーシックな保険です。会員銀行の役員等の約4割の方が加入しています。

(2023年8月1日現在)

##### ✓ 医療保障保険制度、医療費支援制度

病気・ケガによる入院を保障する保険です。両制度にセットで加入することで、入院日額保障に加え、短期入院・外来手術等、多様なリスクに備えられます。

#### ご自身のために

##### ✓ 三大疾病保険制度

特定疾病(悪性新生物(がん)、急性心筋梗塞、脳卒中)で所定の状態(悪性新生物(がん)は診断確定)となった場合に、保険金をお支払いする生前給付型の保険です。

##### ✓ 長期療養収入補償(GLTD)制度

就業障害が継続した場合に保険金が支払われる、収入補填型の保険です。けがや疾病のほか、うつ病など精神疾患による長期療養もカバーします。

注1) 地方銀行によって、導入している制度は異なります。 注2) 制度内容詳細についてはパンフレットをご参照ください。

※「会員銀行とその銀行持株会社・子会社・関連会社、銀行持株会社の子会社および協会事務局の役員」を指します。

Pick up!

地方銀行は日本の伝統工芸を支援しています！

## 人間国宝の講演会や企画展示の実施（福岡銀行）

地方銀行は、地域に根差す文化の継承や伝統工芸の活性化を支援しています。

その一例として、福岡銀行は、グループ行の熊本銀行とともに、日本初で最大の本格的船舶投資ファンド「アンカー・シップ・パートナーズ」が主催する講演会と展示会に協賛し、「十四代今泉今右衛門氏（人間国宝）の講演会」と「日本工芸会×飛鳥クルーズ作品展」を実施しました。

講演会・作品展には、両行のお客さまを多数ご招待。担当の行員も同席し、本物の芸術品と一緒に鑑賞する時間は特別な時間となったとのことです。



▲ 自身の作品を解説する今泉氏（右）

### 十四代今泉今右衛門氏（人間国宝）の講演会（2024年2月13日）

色絵磁器の重要無形文化財保持者（人間国宝）の十四代 今泉今右衛門氏（61）（佐賀県有田町）をお招きし、福岡市内のホテルにて、佐賀県の有田町が誇る有田焼の歴史や、昔ながらの手仕事の意義について解説していただきました。

また、同氏は、能登半島地震で被災した輪島塗の工房が全焼したり全壊したりしている様子を伝え、「時間はかかるが技術を守ってほしい、できる限り支援したい」とその想いを話されました。

### 日本工芸会×飛鳥クルーズ作品展（2024年2月13日～17日）

アンカー・シップ・パートナーズ社が主要株主となっている「郵船クルーズ」が運航する大型クルーズ船「飛鳥Ⅱ」の船内には、日本工芸会所属作家の作品が展示されています。今回、その展示品の一部と、九州を拠点に活動する作家の陶芸や漆芸、人形など、計35点を展示する作品展が、福岡銀行が運営するイノベーション創出支援施設「GROWTH 1」で開催されました。

本展示販売会の売上の10%は、公益財団法人日本工芸会を通じ、令和6年能登半島地震で被災した輪島塗の復興のために寄付されます。



▲ 福岡県福岡市生まれの人形作家・中村信喬氏作品「碑林」「希望」

▲ GROWTH 1

### 公益社団法人 日本工芸会

全国に9つの支部を置き、専門分野別の各部会で、日本の各地域に根付く「伝統」を次世代に繋いでいくための様々な活動（技能伝承・後継者育成、技・作品の認知向上、原材料・部材供給者の確保、新たな展示・販売機会の創出等）を行っています。

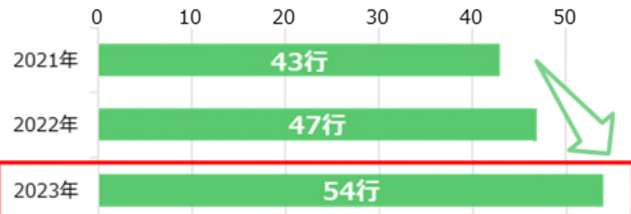
## 統計グラフ

# 地方銀行における 投融資を通じた気候変動問題への取り組み ～実施行数も取扱手法も増加傾向～

地方銀行は、持続可能な地域社会づくりの観点から、気候変動問題への対応を重要な経営課題と捉え、取り組みを推進しています。

当協会が2021年より毎年10月に実施しているアンケート調査によると、取引先に対するグリーンファイナンス（環境関連の投融資）を実施している地方銀行は、2023年で54行となっています。2021年の43行と比較すると、約3割増加しました。

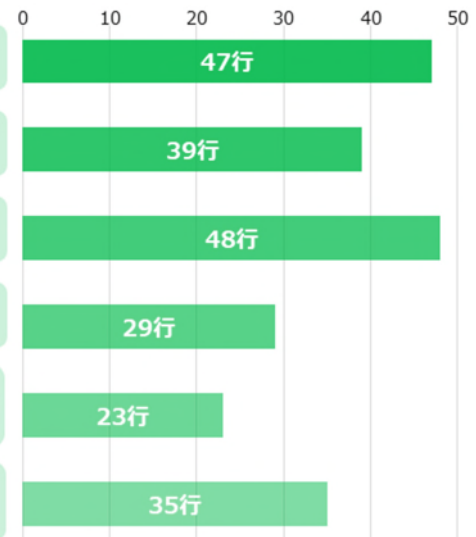
グリーンファイナンスの実施行数



グリーンファイナンス手法の内訳

グリーンローン	●国内外のグリーンプロジェクト（環境改善効果のある事業）に要する資金を調達する際に用いられる融資。
グリーンボンド	●国内外のグリーンプロジェクトに要する資金を調達するために発行する債券。
サステナビリティ・リンク・ローン（注1）	●借り手が事前に定めたサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPTs）の達成状況に応じて、金利条件等が変化する融資。
サステナビリティ・リンク・ボンド（注1）	●発行体が事前に定めたサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPTs）の達成状況に応じて、金利条件等が変化する債券。
トランジションファイナンス	●脱炭素社会への移行（トランジション）を進めるため、長期的な戦略に則り、着実な温室効果ガス削減の取り組みを行う企業に対し、その取り組みを支援する投融資。
ポジティブ・インパクト・ファイナンス（注1）	●事業活動が経済、環境、社会にもたらす影響を分析し、ポジティブな影響の増大とネガティブな影響の緩和に向けた取り組みを支援する投融資。

グリーンファイナンス手法別の実施行数（複数回答）



（注1）本来のファイナンス対象は特定のプロジェクトに限定されないが、ここでは気候変動対応に基づく評価指標が設定されているものを集計。

また、各行が取り扱うグリーンファイナンスの手法が多様化しています。上表6種類の手法に関し、2021年では、1つの手法に取り組む銀行が最も多かったですが、2023年では6種類全ての手法に取り組む銀行が最も多くなる等、地方銀行は多様なグリーンファイナンス手法に取り組むようになってきました。

引き続き、地方銀行は、取引先の脱炭素化への取り組みを投融資を通じて積極的に支援してまいります。

グリーンファイナンスの取扱種類



実施していると回答した銀行数  
少ない ■■■■■ 多い

（注2）2021年は、ポジティブ・インパクト・ファイナンスを除く5種類についてアンケートを実施。

地銀協レポート Vol.12 2024年3月13日公表

一般社団法人全国地方銀行協会  
〒101-8509  
東京都千代田区内神田3-1-2  
TEL 03-3252-5170  
<https://www.chiginkyo.or.jp/>

地銀協公式X（旧Twitter）でも、  
地銀界や会員銀行の取り組みを  
紹介しています。  
ぜひフォローしてください！

